

声明:

喫煙に COVID-19 予防効果があるという言説には根拠がない

Campaign for Tobacco-Free Kids 代表 Matthew L. Myers

2020 年 4 月 24 日

日本禁煙学会理事 松崎道幸・訳

フランスでの統計調査結果が Qeios というウェブサイトで公開されて以来、喫煙と COVID-19 の関係についての誤った情報がメディアで報道された。それ以降、喫煙者は新型コロナに強いとか、ニコチンにコロナ予防効果があるという報道が数多く行われている。この主張は、新型コロナウイルスに感染した喫煙者は重症化しやすいという多くの疫学調査成績に反している。しかもこの主張は専門家の査読を受けていない調査結果に基づいており、科学的点検に欠けたものである。

Qeios に掲載されたフランスでの調査報告から、喫煙、ニコチンと COVID-19 の関連について信頼できる科学的結論を引き出すことはまったくできない。この調査は、フランスの一病院の少人数の患者についてのものであり、科学的な疫学研究に必須の偏りのない標本集団の設定や交絡因子の調整が行われていない。

このニュース報道とは正反対に、喫煙が呼吸器感染症リスクを増やし、免疫機能を弱め、COPD、心臓病、糖尿病をはじめとした多くの慢性疾患を引き起こしているという確固とした科学的証拠が存在する。

https://www.cdc.gov/tobacco/data_statistics/sgr/50th-anniversary/pdfs/fs_smoking_respiratory_508.pdf

https://www.cdc.gov/tobacco/data_statistics/sgr/50th-anniversary/pdfs/fs_smoking_overall_health_508.pdf

https://www.cdc.gov/tobacco/data_statistics/sgr/50th-anniversary/index.htm

また、電子タバコが肺を傷つけることも証明されている。したがって、紙巻きタバコ喫煙者も、電子タバコ使用者も COVID-19 によって健康を大きく損なう恐れがある。

[https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/need-extra-precautions/people-at-higher-](https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/need-extra-precautions/people-at-higher-risk.html?CDC_AA_refVal=https%3A%2F%2Fwww.cdc.gov%2Fcoronavirus%2F2019-ncov%2Fspecific-groups%2Fhigh-risk-complications.html)

[risk.html?CDC_AA_refVal=https%3A%2F%2Fwww.cdc.gov%2Fcoronavirus%2F2019-ncov%2Fspecific-groups%2Fhigh-risk-complications.html](https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/need-extra-precautions/people-at-higher-risk.html?CDC_AA_refVal=https%3A%2F%2Fwww.cdc.gov%2Fcoronavirus%2F2019-ncov%2Fspecific-groups%2Fhigh-risk-complications.html)

タバコは毎年全世界で 800 万人以上の命を奪う予防可能な最大の死亡原因である。タバコ製品を使用する者の半数はタバコによって命を落とす。新型コロナウイルスで死なないためには、一刻も早くタバコ使用をやめる必要がある。禁煙後肺の働きは速やかに回復するからである。

世界中の公衆保健専門家と政府が COVID-19 パンデミックとたたかっている間に、タバコ産業はそれを悪用して、フェイクニュースを広め、タバコ製品という「死向品」を売り込もうと画策している。

<https://www.takeapart.org/campaigns/covid-19-activities/>

<https://ggtc.world/2020/03/24/covid-19-and-tobacco-industry-interference-2020/>

<https://www.latimes.com/science/story/2020-04-17/coronavirus-tobacco-vaping-industries-opportunities>

タバコ産業とその協力者はいくつかの国でタバコやベイピングが COVID-19 を防ぐというフェイクニュースを広めており、極めて危険な行為であるといわざるを得ない。

たとえそれがコロナのパンデミックをさらに悪化させることになろうとも、タバコ産業はタバコを売るためには何でもやる。世界中の市民と政府は、タバコ産業が人の命と健康を奪う産業であることをありのままに見つめる必要がある。

プレスリリース
COVID-19 と喫煙
ニコチンがコロナを予防するという言説を最大限に警戒せよ
フランス反タバコアライアンス
(French Alliance against Tobacco)
2020 年 4 月 17 日

日本禁煙学会理事 松崎道幸・訳

最近、学者が発信したニコチンが COVID-19 を予防するという誤った情報が様々なメディアを通じて拡散されている。フランス反タバコアライアンスは、タバコとニコチンが COVID-19 を予防するという主張をふりまくことに反対する。

フランス反タバコアライアンスは、タバコがコロナ予防になるという仮説の宣伝を残念に思う。タバコが世界で毎年 800 万人を死亡させる重大なパンデミックであることは言うまでもない。そして、タバコがコロナ感染を予防するという情報に根拠はない。本アライアンスは、3 月 3 日に非喫煙者に比べて喫煙者の COVID-19 重症化リスクが 133%高まるという New England Journal of Medicine の論文を想起することを望む。

さらに、ICU 管理 COVID-19 患者の喫煙率が極めて低い(喫煙率 27.7%の中国で ICU 患者喫煙率は 12.6%、喫煙率 13.4%の米国で ICU 患者喫煙率 1.3%)ことに関しては、これらの調査におけるリスク因子の調査法および年齢調整を行っていない点に大きな不備があると考えられる。ちなみに、フランスの喫煙率は男性 28.2%、女性 22.9%だが、65 才から 75 才では男性 11.3%、女性 8.8%と高齢者で低くなっている。この傾向は他の国でも同様にみられる。高齢者の入院が多い COVID-19 患者で喫煙率が低くなるのは理の当然である。

たとえニコチンにながしかの COVID-19 緩和効果があると仮定しても、喫煙のリスクが極めて大きいことを考えるならば、禁煙推進以外の選択はない。非喫煙者に対してニコチン摂取を推奨することにも同意できない。無煙タバコ使用者に対しては、ニコチン摂取に COVID-19 予防効果があるという期待をすべきでなく、感染予防対策をしっかりと実行するよう求める。

本アライアンスはこの問題に対して以下の立場を表明する:

- 喫煙者が新型コロナウイルスから守られるという科学的根拠はない。感染した場合重篤となるおそれが高いことが証明されている。
- ICU 治療を受ける COVID-19 患者の低喫煙率は、対応する高齢者層の低喫煙率を反映している可能性がある。
- 現在のところニコチンが新型コロナ感染を減らすという仮説に関する疫学的根拠はない。

以上